

令和4年度 いのちの授業 事例集（小学校）【特別活動】

掲載数

79

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	小4	特別活動	SOSの出し方、受け止め方	<p>始めに、授業内での4つの約束を確認した。悪ふざけや争いはしない。友達の考えを受け止める。無理にさせない。ここでの話は持ち出さない。</p> <p>まず自分と向き合うために、テーマに沿って自分の好きなことを書き出し、共有した。次に、楽しい時やつらい時について考え、意見を出し合った。最後に、SOSの出し方受け止め方教育についての動画を見た。</p> <p>大切なことを確認することで自分事として捉え、SOSを出したり受け止めたりする方法を考え、振り返ることができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は、学校内のコーディネーター。 ・川崎市SOSの出し方・受け止め方教育の展開
2 川崎市	小1	特別活動	SOSの出し方、受け止め方をしよう	<p>自分の心を見つめ、心の痛みに対処するためのSOSの出し方・受け止め方を知る活動を行った。まず自分自身の好きなものなどを知り、自分を支える大切なものを知った。次に、どのようなときに心の痛みを感じるかや痛みを感じた時にどのようにしているかを振り返り、動画で「SOSの出し方・受け止め方」について学んだ。学習の最後には、自分の心の傷に気づくことや、周りの人に伝えることの大切さを理解し、自分や友達の命を救うために自分にできることは何か考えている児童が多かった。</p>	<p>川崎市共生共育プログラム エクササイズ 「SOSの出し方・受け止め方教室」</p>
3 川崎市	小6	特別活動	薬物乱用防止	<p>学校にライオンズクラブの方々に来ていただき、薬物がもつ健康面や依存面での怖さについて学習を進めていった。「ちょっとやってみようかな・・・。」という興味で手を出してしまうと、後戻りができなくなってしまうことを知った。1回の判断の間違いが、身体をこわしたり、命を落としたりすることになると一人一人が考えることができた。</p>	ライオンズクラブ
4 川崎市	小2	特別活動	食育「いろいろたべよう パート2」	<p>1年生の時に「いろいろたべよう」の学習を行い、給食にはいろいろな食材が使われていたり、調理する人の気持ちが込められていることを知った。2年生では、本学習のパート2として、食材によっていろいろな栄養素が含まれていることや、栄養素には体を支える役割があることを学習した。好き嫌いをして偏った食生活を送ると、体の調子を崩したり、健康的な生活を送ることができないことを知ることができた。学習を通して、日頃から苦手な食べ物にも挑戦しようとする児童が見られた。</p>	講師：本校栄養教諭

5	川崎市	小1	特別活動	食育 「ぎゅうにゅう のチカラ」	給食で出される牛乳は、成長期の児童にとって大切な食品であるが、1年生には家庭で牛乳を飲む機会も少なかったり、牛乳のおいや味に苦手感をもったりする児童もいた。また、気温が下がることで牛乳を残す児童も増えてきた。そして、一日だけの移動牧場「わくわくモーモースクール」が実施され、牛を見て仔牛に触れて温かさを感じた児童に、どうして毎日の給食に牛乳がでるのか考えさせ、栄養教諭からの牛乳の働きについての話を聞き、牛乳を飲むとどんな良いことがあるか話し合い、それをもとに自分のめあてを考えた。めあてには、自分の体や心のことだけでなく、仔牛のための牛乳を分けてもらっているから大切にしたいというものもあった。	T1 担任 T2 栄養教諭
6	川崎市	小1	特別活動	食育 「ぎゅうにゅう のチカラ」	給食で出される牛乳は、成長期の児童にとって大切な食品であるが、1年生には家庭で牛乳を飲む機会も少なかったり、牛乳のおいや味に苦手感をもったりする児童もいた。また、気温が下がることで牛乳を残す児童も増えてきた。そして、一日だけの移動牧場「わくわくモーモースクール」が実施され、牛を見て仔牛に触れて温かさを感じた児童に、どうして毎日の給食に牛乳がでるのか考えさせ、栄養教諭からの牛乳の働きについての話を聞き、牛乳を飲むとどんな良いことがあるか話し合い、それをもとに自分のめあてを考えた。めあてには、自分の体や心のことだけでなく、仔牛のための牛乳を分けてもらっているから大切にしたいというものもあった。	T1 担任 T2 栄養教諭
7	川崎市	小3	特別活動	SOSの出し方・受け止め方教室	「自分の心の痛みを小さくするために大切なSOSの出し方、受け止め方を知ろう」のめあてを確認をした。教師の失敗談やくじけそうになった時の話をする事で児童があまりのままの素直な気持ちと一緒に考えられるような雰囲気を作った。自分の好きなことをワークシートに書き、それが自分自身を支えるレジリエンスであることを伝えた。その後、自分がどのような時に「心の痛み」を感じるか振り返り、「心の痛み」に気が付く大切さを知り、SOSを出してもよいことを伝えた。	・かわさき共生*共育 プログラム ・全学年
8	川崎市	小1	特別活動	SOSの出し方・受け止め方	自分のことを振り返り、好きなものやこと、自分のよいところ、大切にしているものなどをワークシートに書き込んだ。それらが、苦しい時やつらい時に自分にとって大切なものになることを学習した。また、SOSの出し方・受け止め方の動画を見て、自分自身で自分に「大丈夫？」と声をかけてあげることや周りの誰かに「助けて」と言うこと、誰かの「助けて」を受け止めてあげることなどの大切さを学んだ。	教育委員会から提示された動画
9	川崎市	小3	特別活動	自分も友達も大切にしよう	休み時間に友達と遊んでいる時に、友達を叩いたりからかったりする人がいる。そのような行為をされた人、した人、周りで見ている人がどのような気持ちなのかクラス全員で考えた。叩くことが楽しい、と思うのはおかしい、それは本当の友達ではない。という意見が出た。話し合いの最後には、誰もが「自分の命も友達の命も大切にしなければいけない」「安心して入れる教室・学校」にしなければいけない、とまとまった。	

10	川崎市	小2	特別活動	食育「いろいろ食べよう」	毎日学校で食べている給食にはいろいろな食品が使われており、食べものには3つのはたらきがあること、バランスのよい食生活が健康につながることを学習した。3匹のこぶたの紙芝居を読み、食事の良い例と悪い例をあげながら、なぜいろいろ食べる必要があるのか、これからの食事で気をつけたいことを話し合った。学習を通して、好き嫌いの多かった児童も、苦手な食べものに少しずつ挑戦しようという意欲をもち、給食を残さず食べようとする様子が見られた。	
11	川崎市	小6	特別活動	防災教育「災害から命を守る」	大きな災害時には、学校の体育館で避難所生活をする必要がある。避難所での生活に必要な災害グッズが校内のどこに保管されているかについて知り、具体物を用いて避難所生活の体験を行った。災害時に自分の命を自分で守るためには、日ごろからの備蓄が大切だということを学び、自宅でも備蓄をしていきたいと話していた。さらに避難経路の確認や保護者と災害時の連絡方法についても確認が必要だと感じているようだった。	講師は学校コミュニティの方で、避難所生活に詳しい方。
12	川崎市	小2	特別活動	じしんがおきたら	小学校に入学してから、防災訓練を何度か経験してきた。これまでの訓練で学んだことを生かし、「学校で地震が発生した時、自分で考えて安全な行動をとるにはどうすればよいのか」資料を使って考えた。授業中の教室で地震が発生した時、机の下にもぐり机の足を押さえることはたくさんの児童が理解していた。一方で、休み時間に廊下を歩行していたり、校庭で遊んでいたりする時に、どのような行動をとればよいのか理解していない児童も多くいた。そのため、廊下の歩行時はしゃがんで頭を守る、校庭にいる時は校庭の中心に集まるなど、安全な行動について資料を見ながら確認した。自分で考えて自分の命を守ることの大切さに気づくことができた。	学校の写真 (教室、校庭、廊下、階段) 正しい避難の写真
13	川崎市	小1	特別活動	いろいろたべよう	1年生の学級活動の学習で、日々の食事を食べる際に「なぜ苦手な食べ物も食べないといけないのか」を学んだ。「3匹のこぶた」の紙芝居や、給食の献立を用いて、食べ物には、いろいろな栄養が含まれており、バランスよく何でも食べることが、自分の健康にもつながるということを学校栄養職員の話を聞きながら理解する学習を実施した。	学校栄養職員
14	川崎市	小2	特別活動	防災教育「地震から命を守る」	日本が地震大国であるということから、自分自身で命を守る必要性を話し、学校で地震が起きた際取るべき行動を各施設ごとに共通確認をした。地震から身を守るだけでなく、停電、水道や交通の不通、土砂崩れや津波といった二次災害があることを知って、自分の身は自分で守ることを理解した授業だった。	
15	川崎市立	小2	特別活動	防災(防犯)教育「じぶんのいのちはじぶんでまもろう」	防災教育の一環として、防犯訓練を実施した。管理棟一階に、不審者が侵入した想定で、緊急時の合言葉や対応について体験した。校舎内の導線なども鑑み、教室内に立てこもり、警察の対応を待つこととした。各教室を内側から施錠し、教室の照明を消した上で机の下に隠れ気配を消した。廊下の窓から撮影した写真を見た児童は「こんなに暗くなるんだ。」「これなら中の様子が分からないね。」と話していた。 併せて、映像資料「危ない場所ってどんな場所」を視聴し、危ない時間・危ない場所について考え合い、生活科での町たんけんの経験も思い出しながら、学区の安全性や、放課後の安全な過ごし方について考えを共有した。	映像資料 「あぶない場所って どんな場所」

16	川崎市	小3	特別活動	学級活動(2) 「朝食の大切さを知ろう」	事前のアンケートでは、朝食を毎日とっていると答える児童がクラスの大半を占めていた。しかし、生活リズムが整っていない児童や朝食のはたらきについて理解していない児童が多かった。実際によりよく朝食をとるためには、生活リズムを整えることが大切だということや、朝食には頭や体等をはたらかせる効果があることを知り、朝食への意識向上が見られた。実践後には、朝食のはたらきを意識しながら朝食をとろうとしていた児童も見られた。	T2に栄養士
17	川崎市	小複合	特別活動	共生共育 「SOSの出し方・受け止め方教育」	自分の心を見つめ、心の痛みに対処するためのSOSの出し方・受け止め方を知る活動を行った。まず自分自身の好きなものなどを知り、自分を支える大切なものを知った。次に、どのようなときに心の痛みを感じるかや痛みを感じた時にどのようにしているかを振り返り、動画で「SOSの出し方・受け止め方」について学んだ。学習の最後には、自分の心の傷に気づくことや、周りの人に伝えることの大切さを理解し、自分や友達の命を救うために自分にできることは何か考えている児童が多かった。	事前に教職員は市の職員より研修を受け、ねらいや授業プランについて学んだ。
18	川崎市	小1	特別活動	「自分のことも相手のことも大切にしよう！」	「プライベートゾーン」についての意味や場所を絵本を使い説明をした。また、プライベートゾーンについてしてはいけないこと、自分を守る方法等を子どもたちが考え発表した。最後に、家族や教師のイラスト、写真を見せ、「困ったことや、不安がある時にはみんなのことを大切に思っている大人に相談してほしい」と伝えた。子どもたちは真剣に話を聴き、自分のこととして考えている様子だった。	本校 養護教諭 (参考資料) 子どもが変わる 保護者が変わる ワークシートから始まる特別支援教育のための性教育
19	川崎市	小6	特別活動	夢をかなえる心の成長	養護教諭が卒業に向けて、赤ちゃんの頃から現在まで、どのように生活と心が成長してきたかについて授業を行った。事前の調査で、今抱えている悩みや不安について調査し「ない」と回答した児童がほとんどだったが、いずれ誰もが感じるもので、決して悪いことではなく、向き合うことで自分のことを理解したり夢に近づいていくという話をした。赤ちゃん人形を一人ひとりが抱いて「こんなに小さかったんだ」と体も心も成長したことを実感していた。	
20	川崎市	小4	特別活動	命の授業	「命」をテーマにおなかの中にいる時の成長の様子や両親の思いなどをわかりやすく話していただいた。実際の最初の自分たちの大きさや成長の仕方など、写真や動画等で詳しく教えていただいた。子どもたちは、愛情がないと生きていけないことや生まれてきたことの奇跡を実感し、「自分」を大切に思う気持ちや両親への感謝の気持ちを抱いた。	命の語り部
21	川崎市	小複合	特別活動	いじめ防止教育 「どのように行動したらよいのだろう」	集会を開き、3つの場面(挨拶をしても無視される、自分のほうをチラチラ見てはこそこそ話をされたり笑われたりする、授業中の発言の時にヤジがとんでくる)を教師が再現し、日常の自分たちの行動を振り返らせた。このような時、やられたり言われたりした友達は、とても辛く悲しく、教室にいたくない気持ちになる。では、いじめられている子や周りの子たちはどうしたらよいかについて考えた。いじめの4層構造を提示して、それぞれの立場にいる児童の行動の仕方について具体例を示し、一人一人が正しい判断をする・「やらないよ」としっかり断る・相手の気持ちを想像することの大切さをおさえた。そのあと、各学級で再度話し合いを行った。	いじめの4層構造の図や指導内容を含めたパワーポイント 全校児童を対象

22	川崎市	小1	特別活動	食育「いろいろたべよう」	身近な存在である給食には、いろいろな食品が使われており、その食品の一つ一つには、それぞれにはたらきがあること、また、自分たちの成長に関わっている食品を知ること、いろいろ食べようとする意識が高まった。親しみやすい物語を扱った紙芝居を使うことで、食事の良い例と悪い例を視覚的に認識し、いろいろ食べることの大切さを知り、進んで食べようとする姿がみられた。	学校栄養職員と担任のTTで行った。
23	相模原市	小6	特別活動	世界人権宣言から考えよう	世界人権宣言の内容を学習すると、児童から「クラスにも取り入れたい」という声上がり、「クラス人権宣言」をつくった。知識を得るだけでは変化や当事者意識をとめないにくい道徳の内容を学級活動の時間に関連付けて扱い、意見交流することで自分ごととして捉えることができた。それぞれが考えをもち、意見交流することで主体性のあるものとなった。また、児童が自主的に模造紙にまとめ、ポスターとして教室内に掲示した。	世界人権宣言
24	相模原市	小2	特別活動	いのちの授業	助産師さんに来校していただき、命が生まれる現場での内容を子どもにわかりやすく教えていただく。出産の大変さやお母さんの気持ち、出産に携わる方々の様子や工夫を具体的にお話していただくことで、命がたくさんの人の手によって生まれたことを知り、命の大切さに気づく発言が多くみられた。	講師：助産師
25	相模原市	小3	特別活動	「みんなにやさしい町」～いろいろな人の感じ方を知ろう～	パラスポーツを通して、障がいに対して関心をもち、障がいをもった方の困り感や生きる知恵を共感させていくことを目標とした。グループに分かれてボッチャとゴールボールの体験をした。 ボッチャは肢体不自由の人でも楽しめるスポーツであることを意識させ、全身で投げることができないということを考える場面を設定した。ゴールボールでは、視覚障がい者が行うものなので、バンダナを装着し安全面に留意させた。振り返りでは、障がい者と共に生きていく中で今回の体験をどのように生かすか考えさせた。	教育委員会学務課 ボッチャ・ゴールボール体験教材
26	相模原市	小6	特別活動	相模原市いじめ防止フォーラムに向けて「いじめ防止の取り組みについて」	「みんなが安心して気持ちよく過ごすために」をテーマに、学級で話し合いを行った。人により「嫌だな」と感じることに違いがあるとの意見があり、人からされてうれしいことと、モヤッとするを出し合った。その上で、「こんなことをされたらうれしい」ということが増えるような取り組みを考え、6年生が主体となり、「ありがとうを増やそう」というポスターを作成・掲示したり、各クラスでうれしい言葉や行動について話し合ってもらい、その集計を取って全校集会で紹介をしたりすることで、その言葉や行動が増えていくように呼びかけをした。	教材等なし
27	相模原市	小2	特別活動	いのちの大切さ	赤ちゃんが生まれるまでの過程を、さまざまな資料を提示してもらいながら詳しく説明していただいた。自分がこのようにして誕生したということと、生まれるまで、生まれてからの両親の思いを感じることができた。	講師：助産師

28	相模原市	小5	特別活動	いのちの大切さ	赤ちゃんが生まれるまでの過程を、さまざまな資料を提示してもらいながら詳しく説明していただいた。自分の意思で生まれてきたこと、自分の思いが生まれる前からあったことなど、先生の思いが伝わるお話もあった。加えて二次性徴についてや、職業選択についてのお話をしていただいた。	講師：助産師
29	相模原市	小1	特別活動	たいせつなあなたへ	自分と相手の体を大切にすることを身につけることができるようにすることと、自分の大切なところを触られたりしたときに適切に対応する力を身につけることができるようにすることをねらいに、昨年度全学年で実施した内容を今年度入学してきた1年生にも実施。1月実施予定だったが、担任の体調不良により2月に延期し実施予定。	主に相模原市教育委員会作成の資料を使用
30	相模原市	小5	特別活動	たいせつなあなたへ	自分と相手の心と体を大切にすることを理解し、よりよい人間関係を構築する態度を身につけることができるようにすることと、性暴力の被害に遭ったとき等に、適切に対応する力を身につけることができるようにすることをねらいに、今年度新たな資料を用いて実施した。 児童は自分の身を守ることや、「いや」と言うことを再度認識し、相手との体と心の距離感についても見直したいという感想を持っていた。	主に相模原市教育委員会作成の資料を使用
31	相模原市	小1	特別活動	人権教育『人権とみんなにできること』	世界子どもの日に合わせ、NHK制作の動画『世界を知るアニメ～いろとりどりさん～』を視聴した。自分たちと同じ位の年齢のエチオピアやシリアに住む子どもたちの現状を知ること、自分たちのもつ権利やこれからの未来についてクラスで話し合いを行った。子どもたちからは、「自分たちの生活があたりまえじゃないんだ。」「日本がこれからも平和な国であってほしい。」「こういう国の人たちのために募金であるんだ。」等の感想が出た。	(参考資料) ツバメ世界子どもの日プロジェクト (NHK制作)
32	相模原市	小5	特別活動	性に関する指導「血液の働きと病気」	始めに血液の仕組みを学習し、その後血液で感染するエイズについて、飛沫感染するコロナと比較しながら学んだ。日常生活の中では感染しないことを理解するとともに、どんな病気でも人間として誰とでも分け隔てなく接していこうとする気持ちを育てることをねらいとした。授業後、児童からは「どんな病気の人でも差別しないで助け合っていきたい。」「色々な病気と戦っている人たちに会って様々なことをわかり合えたらいいな。」「病気には、なりたくてなっているのではない、ということを中心に留めておきたい。」「エイズは普通に接している時は感染しないことがわかった。」等の感想があった。	(参考資料) 相模原市『性に関する指導』の手引き
33	相模原市	小1	特別活動	命の話	おへそは何のためにあるのかを「おへそのひみつ」の絵本をもとに確認した。その後、命の始まりの大きさ、3ヶ月、6ヶ月、9ヶ月の胎児の大きさを身近な果物を使用して確認すると共に、それぞれの時期の母親の気持ちや気をつけていたことを話した。また、身近な人、それ以外の人(例えば電車での優先席のお話)それぞれがみんなに守られて生まれてきた大切な命だと話した。	福音館書店「おへそのひみつ」

34	相模原市	小3	特別活動	農園・花活動	自分たちで植えた学校農園の野菜（ピーマン、シントウ）の栽培で、あらゆる工夫をし、大切に育てることで、時期が終わっても実をつけ続ける様子から、植物が生きている、命をつなごうとする生命の尊さを感じた。	
35	相模原市	小複合	特別活動	いじめ防止強化月間について	どのような行動が「いじめ」にあたるのか再確認し、いじめを無くすには自分のことだけでなく他の人のことを考えることが大切であることを理解した。また、困ったこと、苦しいことがあった時の解決方法や相談先について知った。	相模原市教育委員会学校教育課「いじめ防止強化月間指導プログラム」 いじめ防止リーフレット
36	横須賀市	小2	特別活動	保健指導 「おへそのひみつ」	おへそはお母さんから栄養や酸素など、生きるために大切なものをもらっていた証拠であり、お腹の中で大切に育てられていた事をおへその秘密を通して知った。授業の最後に全員で赤ちゃん人形を抱く体験をしたが、とても大切そうに抱いており、感想でも自分の命を大切にしたいと書く児童がいた。	赤ちゃん人形
37	横須賀市	小1	特別活動	食育 「わたしたちのためのごはん」	日頃口にしている食事は、食べる人がおいしく食べられるように作り手が工夫をしたり、健康を願ったりして作っていることを知り、感謝の気持ちをもって、苦手な食材でも食べようとする姿勢や態度を育てるために授業展開を組み立てた。事前アンケートから子どもの苦手な食材や保護者の調理の際の工夫を紹介したり、給食調理員の調理の様子を動画で視聴させるなどの工夫をし、前述した単元目標に迫った。	栄養教諭・給食調理員
38	横須賀市	小複合	特別活動	カブトムシを飼うか話し合おう	本特別支援学級の児童は、昨年度から[どこんじょうひまわり]を育てている。地域に方のご協力もあり、今年度、昨年育てた[どこんじょうひまわり]の種を衣笠山に植えることになった。その際に衣笠山の管理人の方から「カブトムシを飼わないか」というお誘いがあった。その後、学活でカブトムシを飼うか話し合いを行った。昨年、[どこんじょうひまわり]を育てる活動を通して、命に触れている子どもたちからは、過去の飼育の失敗や亡くしてしまった時の不安などが多く出た。そんな中ある児童が、「命を扱うチャンスをくれたいつも支えてくれている地域の方の期待に応えたい」という意見を出した。全員の想いが一つになり、調べ学習を行いながら飼育をした。命について真剣に考え、責任感をもって育てる活動につなげることができた。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方（グリーンアドバイザー） ・特別の教科道徳3年「めをさますたね」
39	横須賀市	小4	特別活動	防災教育 「みんなで、みんなのいのちを守る」	校内で不審者対応の避難訓練を実施した。当日、全校放送や担任からの指導はあったが、児童はその重要性をあまり実感できていないように感じた。振り返りの時間を取り、数年前に大阪府の小学校で起きた事件について伝えた。不審者対応の避難訓練が毎年行われている理由をみんなで考えた。実際に身の回りで起きたことでなくても、小学校という場で、こんなにも恐ろしい事件が起きたことに、ショックを受けていた児童もいる。黙って気配を消すことを、一人一人が真剣に取り組むことで、みんなの命をみんなですることができることを確認することができた。	11月に不審者対応の避難訓練があった。実際にあった事例を、言葉を工夫しながら伝えた。

40	湘南三浦	小1	特別活動	平和教育 「戦争について」	終戦記念日を控えた7月に戦争の話をした。終戦記念日が終わった9月に話をするより、先に「戦争」とはどのようなものなのかを知り、考えてほしいと感じたからだ。「戦争」を知った上で、8月6日、9日、15日に「黙とう」をしてほしい。1年生は、日本が戦争をしていたという事実を知らない子がほとんどだった。今、ウクライナ、ロシアの戦争が取り上げられている中、戦争の悲惨さなどを知り、繰り返してはいけないということ話を話し合った。	「そして、トンキーもしんだ」 「もっと おおきな たいほうを」 「7年目のランドセル」
41	湘南三浦	小5	特別活動	牧場体験	八ヶ岳野外体験活動で、滝沢牧場で牛とのふれあい体験を行った。仔牛とふれあったり、乳搾りをしたりする中で動物とのふれあいを楽しむ様子が見られた。そして、講話で牧場で生まれる牛はほとんど雌であること、乳牛としての役目を終えると食用の牛として出荷されることなどを学んだ。人間は他の生き物の命をいただいて生きることができるとことを知り、食の大切さや命の尊さについて知ることができた。	滝沢牧場の職員の方々 乳搾り体験や仔牛とのふれあい体験、乳牛と食用牛の一生についての講話を通して、生命の尊さを学んだ
42	湘南三浦	小2	特別活動	防災教育「落ちてくるもの、倒れてくるもの、移動してくるものを探そう」	教室で地震が起きたとき、すぐに机の下に避難するということはできている。しかし、いる場所(外・自宅など)によって命の危険から身を守る為に何をすべきかを話し合った。家庭でのタンスや食器棚などの下敷きになり死亡した事例や、「上から落ちてくる及び倒れてくるもの」については意見が活発にでたが、向かってくるもの(車輪のついた棚)は想定外だったようで、驚く様子が見られた。普段から身の回りのものに注意して、地震時、これらのものがどういう動きをするかを前もって予測する意識を高めることができた。	新しい防災教育(光文書院)
43	湘南三浦	小4	特別活動	いじめ防止教室	安心、健康、安全に暮らすために必要なものとして人権がある。知らず知らずのうちに、いじめの加害者となってしまうこともあるので、周りをみる余裕をもち、嫌な空気があった場合は、自ら行動するように心がける。警告、連絡、相談が人を助けることや、日常的に優しく丁寧な言葉遣いをするのが大切なことを講演を通して学んだ。	湘南DVサポートセンター
44	湘南三浦	小1	特別活動	交通事故を未然に防ぐために	登下校の見守りを地域のボランティアの方や学校職員で行っていると、道路の歩き方や横断歩道の渡り方に課題がみられる。大きな事故が起こる前に新入生に向けて、神奈川県警交通指導課の方を講師に招き、交通ルール・マナーについての講習会を実施した。警察の方からのお話を児童は興味深く聞き、交通事故の恐ろしさについても考えるいい機会となっていた。校庭では、信号の見方、判断の仕方、道の歩き方や横断歩道の渡り方、道路に車が停車しているときの歩き方など様々な場合の実技の経験をした。また、飛び出しの危険性についても体験を通して理解することができた。	神奈川県警交通指導課 交通安全協会 茅ヶ崎市役所職員
45	湘南三浦	小5	特別活動	ふれあい体験授業	町の子ども育成課職員、町保健師、出産を控えた妊婦さんとご家族を講師に迎えて人権教育を行った。いのちの芽生えやおなかの中で成長する赤ちゃんの様子、赤ちゃんがお母さんの身体に送る様々なサインなどについて話を真剣に伺った。また、妊婦さんのご家族の思いを直接お聞きし、自分や家族、友だちのいのちの大切さについて考えた。	町の子ども育成課職員、町保健師、妊婦さん

46	県央	小複合	特別活動	交通安全教室	安全に道路を通行するための基本的な技能と知識の習得を目指して、交通安全教室を実施した。地域の企業の協力を得て、横断歩道の正しい渡り方、トラックの死角や内輪差を体験した。死角体験では、実際にトラックに乗り、運転手から見えない場所があることを学んだ。内輪差体験では、トラックが校庭を走行し、後輪が段ボールを実際に踏む様子を見て、危険であることを実感した。交通ルールを守り、自らの命を守るための方法を考える良い体験となった。	講師 運送株式会社の 方々 対象 小1・2年
47	県央	小複合	特別活動	不審者対応訓練	校内に不審者が侵入してきたことを想定して訓練を実施した。教室に侵入しようとしている際に、その学級、周辺学級の児童はどのように行動したらよいのか、また教職員は児童の安全を確保するためにどのような行動をとったら良いのかを確認した。児童は教室内のバリケードの作り方、不審者が確保されるまで静かにすることを知った。教師は、不審者に対して適切な距離をとること、落ち着かせるような声かけをすることを確認した。児童は自分の命をどのように守っていったらよいのかを考えることができた。	講師 警察署の方々、 スクールサポーター 対象 全校
48	県央	小複合	特別活動	いのちの大切さ	心身の発育・発達は、男女や個人によって違いがあることを知る。命が誕生するときの映像や骨盤模型から赤ちゃんが生まれるところを見たり、子宮の役割を聞いたりした。子宮内で1つの精子と卵子が受精して命が生まれることを知った。「1年間話しかけられなかった赤ちゃんは亡くなってしまう。」という話を聞き、驚く様子が見られた。命を大切にしていきたいという思いをワークシートに書いている児童が多く見られた。	講師は、認定子育てアドバイザー、家庭教育アドバイザーの先生。 5・6年生合同
49	県央	小1	特別活動	うまれてきてくれて ありがとう	受精してから生まれてくるまでの成長を知った。生まれる直前になると逆さ向きになることに驚く様子が見られた。その後、赤ちゃん自分たちのできることを比較し、自分の成長を感じていた。「一人一人、みんなが宝物」であるという話から、「命は大切なものなんだ。」「うれしいな。」という思いを話していた。「宝物を大事にするためには、『いいところみつけ名人』になるといいよ。いい所を見つけてもらえると、みんなが笑顔になれるね。」という話を聞き、友達のいい所を探すようにしたいという思いを持つ児童もいた。	「うまれてきてくれてありがとう」の絵本

50	県央	小複合	特別活動	人権週間の取り組み	<p>世界人権週間に合わせて、学校全体で人権について考える期間として活動した。</p> <p>◆福祉委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童朝会発表：人権クイズや福祉委員会の取り組みについて発表 ・各クラスで「言われて嬉しかったふわふわ言葉」をハート型カードに書いて4つ切り画用紙に貼って廊下に掲示した。 ・赤い羽根募金活動を平行して行った。 ・ペットボトルキャップとプルタブ回収を行い、昼の放送で広報した。 <p>◆運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権にかかわるクラス目標を決め、達成したらシールを貼る活動をした。 <p>◆職員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピンクシャツデーに、名札ケースや服装でピンクの物を身に付けて、人権尊重の意思表示を行い、児童にも発信した。 ・校長講話および、校長室前廊下での啓発掲示。 	
51	県央	小2	特別活動	生命の尊さ 「おへそのひみつ」	<p>1月に生活科の学習で、自分の成長に関心をもたせ、自分が大きくなったことやできるようになったこと、役割が増えたことについて学習する。特別活動では、誕生する前の母胎内で、へその緒を通して栄養をもらい、大事な体が作られことから命の尊さについて気づかせた。また、生命誕生の喜びを知ることにより、自他を大切にする気持ち、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持たせた。児童それぞれの家庭環境には配慮して授業を行った。</p>	産前休暇に入る前の教員と養護教諭が授業を行った。
52	県央	小1	特別活動	健康安全教育 「じぶんのからだ」	<p>自分や友達がけがをした時の対応をイメージさせ、自分の体の大切さに気付くとともに、他の人の体も大切にしようとするができるよう理解させた。また、自分の体を見られたり、触られたりしていやな気持ちになる場合について理解させ、そうなった場面で身を守る対応方法を考えさせ、身に付けることができるように確認した。</p>	
53	県央	小複合	特別活動	性・いのちの保健指導	<p>各学年の発達段階に合わせ、以下のことをねらいとした授業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女の体や心の成長と、それにとまなう体や心の変化について理解させ、性的な発達に適切に対応できるようにする。 ・生命誕生のすばらしさを感じ、自他の生命を大切にする態度を養う。 <p>児童は、興味をもって話を聞き、自分の身体や心、命について考えを深めていた。</p>	小1～6まで各クラスごと養護教諭が授業
54	県央	小3	特別活動	防災 「不審者から命を守る」	<p>近年、学校周辺での不審者の目撃情報が増加している。そのため、学校内にも不審者が侵入する可能性がある。そんな時に備え、命を守る訓練として本授業を実践した。児童が不審者の学校内侵入に対して、放送に合わせて避難行動をとり、安全確保ができるようにした。事前に不審者侵入の合言葉を決めていたため、児童は迅速に行動することができていた。緊急時のことを不安に思う児童もいたが、自分たちは何をすべきかを話し合うとまずは避難行動をとることが最優先だと結論に結び付けることができていた。</p>	講師： ①警察官 ②スクールサポーター

55	県央	小複合	特別活動	学校にいるとき地震が起きたら	避難訓練の事前指導を通して、学校で地震が来た場合の避難方法や、いのちの守り方について考えた。考えの共有から、幼稚園や保育園での学びを身に付けている児童もいたが、初めて意識的に学ぶ児童も見受けられた。	防災テキストを活用することで、具体的なイメージをもてた。 (参考資料) 海老名市防災テキスト
56	県央	小複合	特別活動	不審者対応訓練	学校に不審者が侵入したときの対応として、訓練を行った。担任の合図で一か所に集まって待避行動をとること、放送を聞いて行動することができた。本校では、初めての訓練だった。警察官の話から、命を守るということについて考え、行動することができていた。	
57	県央	小4	特別活動	防災教育「防災に関する教育」	児童の地震や洪水、火災などの経験をクラスで話し合った。地震や洪水、火災などの災害の際に自分たちには、どのよな被害があるのかを考えた。スライド資料を使い、それぞれの災害での起こる可能性のある被害を知った。その後、教室や体育館、校庭(屋外)、家の中などの場所にいたときにどのようにして身を守ることができるのかを考えた。それぞれの場所に依じて、身の守り方が共通しているところ、相違しているところをクラス全体で確認した。その後シェイクアウト訓練を実践形式で行った。	防災テキスト内の資料を使い、実際の災害時にどのような危険があるのかを具体的に考えることができた。 (参考資料) 海老名市防災テキスト
58	県央	小6	特別活動	人の命を救うために自分ができることを考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・AEDが市内のどこにあるか調べた。 ・命を救うために自分にできることを考え伝え合った。 	
59	県央	小複合	特別活動	100%輝くスターと私	各学年が担当日を決め、心が温まる・明るくなる良い行いをした児童のエピソードを1人1枚書き、学年でまとめ、エピソードを集めた大きな星を作った。それを保健室隣の掲示板に貼り、誰でも見られるようにした。お互いの良い行動を見つけ合うことで、児童一人ひとりの友達に対する見方を広げることができた。児童たちが自由に見られる場所に貼ったことで、エピソードを読んだ児童がさらに人に優しくしようと考えたり行動が変容したりすることを期待した。	全学年
60	県央	小6	特別活動	SOSの出し方に関する教育	自殺防止を見据え、6年生に対して『SOSの出し方に関する教育』を行った。「思春期になると悩みが増えるのは普通であること」「個人差があり、友達との差を感じることもあること」「この先の長い人生の中で苦しくて苦しくて仕方がなくなるほどの悩みにぶつかることもあること」を説明した。そして、悩んだ時にはどのような解決方法が考えられるか、どのような相談相手が考えられるかを児童の発言をもとに挙げ、教師からは担任以外の学校の教職員や保健師に相談することも可能であることを伝えた。	保健師
61	県央	小3	特別活動	地震からいのちを守る知恵	震災が起こった際の様子を映像で見せながら、避難の仕方について確認した。学校の様々な場所から逃げる道について知り、教室の中にある危険についても学んだ。「ガラスがとんでくるかもしれない。」「エアコンは落ちてくるかな。」と自分たちで考え、身を守る方法について実践を通して学んだ。	

62	県央	小複合	特別活動	福祉学習	「生き方！チャレンジ～あきらめない心～」というテーマで、車椅子バスケットボールチームの相模フォースの方に講演をしていただいた。「自分の障害についての紹介」「車椅子バスケットボールについて」等の講演を通して、心と環境のバリアフリーを目指して自分ができることを考えたり、体験を通して他人を思いやる気持ちや仲間と協力して生きていくことの大切さを考えたりした。障害のあるなしにかかわらず、自分達には様々な生き方があること、そして、それらを選択して生きていくことで命を輝かせていくことができることを学ぶことができた。	(講師) 相模フォース (学年) 小学校5・6年生
63	県央	小1	特別活動	防犯・交通安全	防犯や交通安全に関する動画を視聴し、身の回りに起こりうる危険をどう回避するかについて考え話し合った。児童は、動画に出てくる登場人物の行動を見ながら、こんな時はこうするのが安全であるとか、こんな場所に危険が潜んでいるなど、いろいろと意見を交わしながら安心・安全について考えることができた。	視聴した教材：おしえて、みまもりいぬ～あんぜんのためにきをつけること～ 東京都
64	県央	小複合	特別活動	『薬物乱用防止教室』	かけがえのない人生を守るために、「薬物」とは何かを学び、その恐ろしさを知るとともに、薬物から自分を守るために必要なことは何かを映像や講話から知り、「きっぱりと断る・やらない勇気が薬物の魔力から自分の人生を守る」ことを理解することをねらいとして学習した。後半は、ロールプレイを通して体験活動を行い、児童は断る理由をしっかりと考え、相手に伝えることができていた。	講師は、厚木警察署生活安全課少年係スクールサポーターの方。高学年と中学生で合同学習。
65	中	小4	特別活動	防災教育 「自分のいのちをまもるために」	校内での避難訓練の実施に合わせて、事前指導を行った。火災や地震が起きた時の避難の仕方について、これまでの経験を振り返り、一次避難、二次避難について確認した。防災頭巾やハンカチなどの役割や校内の避難経路について考えた。「自分のいのちは、自分で守る」ことができるよう、一人一人、避難の時の行動について具体的に考えて発表することができた。まとめとして、訓練の際は「①いつも通り落ち着いて行動する。②訓練は真剣に取り組む。」ことをめあてとして取り組むことを確認した。	教材 「NHK for school ドスルコスル～どうする？大地震が起きたら～」を一部視聴。
66	中	小複合	特別活動	不審者侵入時避難訓練	目的は、外部から万が一侵入者があった場合、児童自身が身の安全を守るための知識や態度を身につけさせることと、そのような場合の職員の対応や、校内体制などを確認する。児童が使用している昇降口から不審者が侵入したと想定し、職員の連絡系統の確認及び放送をして全校に知らせる。あらかじめ指導をしておいたことと、昨年度も行ったことで高学年の児童には行動が定着しているようだった。定期的、継続的に訓練をすることでいざというときに児童だけで行動できるようにしたい。	平塚市立金田小学校危機管理マニュアル (1) 不審者侵入時の対応(参考)
67	中	小複合	特別活動	オタマジャクシを救おう	水が減って今にも乾いてしまいそうな排水溝にいた「オタマジャクシを救い出した」と一人の児童が発した言葉をきっかけに始まったカエルになるまでの2か月に及ぶ活動であった。カエルになってからは、エサ取りが難しくなったことで、いくら愛着が湧いたとはいえ、これ以上は飼うことはできない。外へ逃がしてあげようと決めたときに、かけがえのない命を実感できたと考える。	特別支援学級5・6年生の活動。

68	中	小1	特別活動	たいせつなからだ	<p>体には自分だけの場所「プライベートゾーン」があることを知らせ、いたずらをしたりがされたりしないように気を付けようとする態度を養うことを目指し授業実践を行った。「体を清潔に保つためにパンツをはくのだな」「服でかくれているところはとっても大切な場所だから友達のをむやみに触ったり、触られたりしてはいけないんだな」「トイレのときは、こうやっておしりをふいて清潔にするんだな」など、児童はよく考え、発言し、気付き、まわりの意見を聞いていた。授業を通して理解や認識をより深めることができた。</p>	図やイラストを活用することで、理解を深めることができた。
69	中	小複合	特別活動	熱中症を予防しよう	<p>熱中症は、身近で誰もが起きる可能性のあるものであり、症状が重くなると生命への危険が及んでしまうが、適切な予防法を知っていれば防ぐことができる。暑くなり始めた時期に、ひとりひとりが正しい知識を持って予防を心がけること、そして熱中症になった時に適切な対応をすることで命を守ることができることを学ばせた。新型コロナウイルス感染症への対応のマスクの着用についても留意点を伝えた。児童は熱中症を命に関わる病態として認識し、体調不良の友だちに声をかけあったり、予防策を実践するなど、日頃の行動に生かしていた。</p>	各学級で担任が指導 校内で作成したGoogle スライドを利用
70	中	小2	特別活動	「あぶない時、あぶない所」	<p>知らない人に誘われた時の対処の仕方や、危険な場所について理解させ、不審者による犯罪被害に遭わないような行動や態度を身に付けさせる。 自分と相手の大切なところを守るルール、自分の体を見られたり、触られたりして嫌な気持ちになったときの対応方法について伝えた。着替えの際には、相手が嫌な気持ちになるような言動はせず、自分も相手も気持ち良く過ごせるようにすることが大切であることを意識させた。 遊びや日常生活などの他者との関わりを通して、自分自身を大切にすること、相手を尊重する気持ちを育んでいくことが大切である。</p>	教材名（出典） 「生命の安全教育」 （文部科学省）
71	中	小2	特別活動	防災教育 「地しんや火じ からいのちをま もる」	<p>教室内のイラストから、地震が起きたら危険な場所を探し丸をつけさせた後、地震後の教室内のイラストを見せて危険な箇所を確認した。イラストを参考に実際の教室で、本棚や窓ガラス等危ない場所を具体的にイメージした。危険から身を守るためのシェイクアウト訓練も実際に行った。 また、一人にいるときに地震が起きたら？いつどんな時に地震が起きるか分からないという話を児童として、トイレに一人にいるとき、校庭で遊んでいる時、登下校の最中など様々な例を出して、自分の命は自分で守ることができるように、避難の際に気を付けるポイントを知ることや、日頃から家庭で防災に関する話をする事の大切さを感じている姿が見られた。</p>	イラストで地震発生前 と発生後の教室を比較 することで、危険箇所 を分かりやすく理解で きた。 熊本県ホームページ 「【小学校1～3年生】 地震災害から身を守る」 教室内の危険を探すワー クシート

72	中	小3	特別活動	いのちの学習	<p>養護教諭による「いのち」についての授業を行った。児童は、写真などを見て、いのちの芽生えから胎児の発育の様子について知ったり、赤ちゃん人形を抱っこするなどの体験を通して、その存在の大きさに気付いたりした。さらに養護教諭の話からいのちは受け継がれてきたものだということを学んだ。この学習を通して、自分は周囲の人から見守られて成長していることや、自分だけでなく周りの人のいのちもかけがえないものであることに気付くことができた。また、いのちの素晴らしさを感じることもできた児童もいた。</p>	<p>写真や赤ちゃん人形などの教材を活用することで、具体的なイメージがもてた。</p>
73	中	小2	特別活動	おへそのひみつ	<p>おなかの中の赤ちゃんを想像し、赤ちゃんはお母さんのおなかの中の「赤ちゃんの育つ部屋」で大きくなっていく。その部屋で赤ちゃんは、お母さんと赤ちゃんをつなぐ「へその緒」から栄養や空気をもらっていることを知る。へその緒の役割を知り、自分たちがお母さんの胎内で大切に育てられていることに気付く。「へその緒を見たことある。」「へその緒、ずっととってあるよ。」という子どももいた。へその緒は知っているが、へその緒の役割まで知っている子はほとんどいなく、どの子も真剣に話を聞いていた。280日も、おなかの中で大切に育ててくれたお母さんに、感謝の気持ちをもつ子もいた。生活科「あしたへジャンプ」の学習も始まるので、自分の誕生や成長に目を向ける時間となった。</p>	<p>養護教諭による学習 紙芝居 「おへそのあな」 この授業のあとに、生活科の時間に 「生まれてきてくれてありがとう」という紙芝居を担当が読む。</p>
74	中	小5	特別活動	生活の中の法律	<p>神奈川県弁護士会のいじめ予防授業をスクールロイヤーが行った。「人権とはなにか」について、安心、自信、自由をキーワードに説明があった後、その人権を脅かすいじめについて、事例をもとにワークシートを使いながら児童に考えさせた。事例の子どもはその後、自ら命を絶ってしまった結果を知らせ、いじめの怖さを考えさせた。いじめをしている人、受けている人、まわりの人へのメッセージを送り、家族の人とも一緒に考えてほしいと話した。</p>	<p>講師：弁護士 内容：神奈川県弁護士会のいじめ予防授業 資料：パワーポイント ワークシート、 皆さんへのメッセージ</p>
75	中	小6	特別活動	いのちの授業	<p>体育館で、助産師とサポーターの二人でパワーポイントの映像を見せながら講話を行った。小さな受精卵から始まり、母親のお腹の中で成長する胎児の様子を紹介し、成長するにつれて膨らむお母さんのお腹の大きさをサポーターの方が実際に示した。胎児の心臓の音の速さなども聞かせながら、生まれてきただけで命は尊いものであり、自分の命も友達の命も同じように尊いことをみんなで確認した。保護者へのメッセージもあった。</p>	<p>講師：助産師 資料：パワーポイントの映像 ※保護者も5～6名参加していた。</p>
76	県西	小複合	特別活動	防災カリキュラム 「災害からいのちを守る」	<p>各学年ごとに、地震災害（1・4年）・津波災害（2・5年）・風水害（4・6年）について考えた。「災害について知っているか」という最初の発問では、防災訓練等で気を付けていることなどしか出てこなかったが、DVDで災害時や災害後の状況を見たことで、実際に災害が起きた時の被害の大きさをイメージし、災害から自分の身を守る方法を真剣に考えていた。また、地震や津波のメカニズムや、災害がいつ起きてもおかしくないことを知り、「いのちを守るため」に災害時、どんな行動を取ったらよいかをワークシートにまとめ、意欲的に発表していた。授業後に、家族でも災害時の約束について話したと伝えてくる児童も多かった。</p>	<p>小1～小6 (参考資料) DVD「まもるいのち ひろめるぼうさい」</p>

77	県西	小複合	特別活動	交通安全教室 「自転車の安全な乗り方や整備の仕方を学ぼう」	夏休みに増加する自転車に関する事故を未然に防ぐことを目的として、複数の学年で交通安全教室を行った。警察署の方を講師として、主に自転車の安全な乗り方や整備の仕方を学んだ。また自動車の内輪差による危険や、損害賠償のしくみなども併せて知ることができた。自転車は身近な物であるが、安全な乗り方をしたり、正しく整備したりしなければ命を失う可能性があることを、動画や実際の自転車の扱いを通して理解できた。児童は、大切だと思ったことをメモしたり、感想を交流したりすることができた。交通安全教室の後のふりかえりの場面では、夏休みに向けて自分の命を自分で守るために、何に注意して自転車に乗り、交通安全に気をつけたらよいのかを、学びを生かして具体的に考えることができた。	地域の警察署の方 地域の駐在所の方 ※対象学年は3年生～5年生
78	県西	小複合	特別活動	折り鶴参加活動	全校で折り鶴を折る活動を行うにあたり、どんなことをどのような手段で伝えるか、折り鶴実行委員会を設立して考えた。子どもたちから「折り鶴を折ることの意味とは何なのか」「なぜ作られるようになったのか」等を伝えたいという案が上級生から出たため、上級生がそれを伝える方法を考え、絵本を作って、下級生にGoogleMeetで読み聞かせをした。折ることの意味を伝えたいうえで、全校児童に折り鶴を折ってもらった。1年生に対しては、5年生と一緒に折るなどして交流を図った。	【複合学年】 ・全学年対象
79	県西	小複合	特別活動	防災教育 「避難訓練はなぜ必要なのか」	1923年（大正12年）の9月1日に、東京と神奈川を中心として起きた関東大震災での被害の様子の写真を資料として扱った。亡くなった人・行方不明になった人は約10万5000人と失われた命がとても多いことから、大地震があった9月1日を「防災（ぼうさい）の日」と定めたことを知り、改めて災害の凄まじさやこれから自分たちにできることを考えるきっかけにしていこうとしていることに気づくことができた。その後、避難訓練をおして「命」を守るためにどのように行動すればよいかを考えるきっかけとなるよう、各学年の実態に合わせて指導した。	・安全担当教諭 ・テレビ放送使用 ・パワーポイント資料を作成し使用